

学校教育目標 「心豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「心身ともにたくましい生徒」

校 訓 「自主・責任・規律・親和」 R6.6.10発行 文責 校長 本多 博

第19回平戸市「少年の主張」大会で、西山 幸志くんが南部中学校代表として発表しました

昨日(6月9日)、令和6年度 第19回平戸市「少年の主張」大会が行われ、南部中学校からは3年生の 西山 幸志くんが、代表として発表しました。

残念ながら入賞は逃しましたが、「志す」の表題で、自らの決意を堂々と落着いた態度で発表しました。「できるかできないかじゃない。やるかやらないかだ。」という主張を、西山くんの決意と共に、会場の参観者へしっかり届けることができました。

以下、西山 幸志くんの発表内容を掲載していますので、ご一読ください。



「志す」 平戸市立南部中学校 3年 西山 幸志

「できるかできないかじゃない。やるかやらないかだ。」僕が通っている剣道クラブの先生がよく言われる言葉です。何事もやってみないとわからない。できないと決めつけて、やる前からあきらめるより、まずはやってみること。挑戦することの大切さを教えてくれる言葉。僕の背中を押してくれる言葉です。

これまでの僕は、「できる」ことだけを探して「できる」ことだけをして過ごしてきました。「できる」ことをしていれば、何とかかなると思っていたからです。

中学2年生のある日、「生徒会役員に立候補してみませんか。」と先生に言われました。「できるかどうか自信がない」弱気な言葉が頭に浮かび、すぐに返事ができず、悩みました。剣道クラブや吹奏楽部の練習に、勉強もある。できない理由しか思い浮かびません。断ろうと思ったその日、剣道の練習中に先生の言葉を思い出しました。「できるかできないかじゃない。やるかやらないかだ。」無理だと決めつけずにやってみよう。とにかく全力を尽くそう。そう心に誓いました。友達に支えられながら当選を目指して選挙活動を頑張る中で、「やる」と決めたら突き進むことができる自分の長所が見えてきました。残念ながら当選することはできませんでしたが、「できない」と諦めずに立ち向かえた貴重な体験となりました。現在は、学習委員長として、学校全体のことを考えながら、積極的に活動するよう心がけています。

このように、まずはやってみないと、新たな自分の一面には気づけません。あの時やってみてよかったと心から思っています。先日ニュースを見

ている、「人口流失」という言葉が気になりました。全国的な問題であり、僕が暮らす平戸市でも、若い世代の「人口流失」が止まらず、課題となっているからです。若い世代が故郷を離れる理由の一つとして、「希望する業種や職種がない」ことが挙げられるそうです。「希望」を叶えたいという気持ちは、僕にも理解できます。しかし、やりたい仕事ではないからと、「やる」前から「できない」と挑戦もせず、諦めてしまうのはもったいないと僕は思います。

まずは、今ある仕事に向き合い、精一杯やってみて、目指す仕事に近づける努力をしてみてもうでしょうか。平戸市の魅力は、自然や観光だけではありません。それを支える素敵な人がたくさんいることです。何もないからと故郷をあとにする前に、周りにいる故郷を大切に思う人と、やれることを探し、新しいことに挑戦し続ける人が増えれば、「人口流失」は減っていくと僕は考えます。

僕には、平戸市に「やってみたい」と思える仕事があります。それは、平戸市長という仕事です。故郷の未来について、考えるうちに、いつか平戸のために働きたいという夢ができました。そのためにも、まずは高校に合格し、生徒会役員選挙に出る。大学では故郷の未来に必要なことを学び、平戸に貢献できる人になって市長選に出馬する。僕の挑戦は続きます。「できるかできないかじゃない。やるかやらないかだ。」30年後、市長選で僕の名前を見つける日がくるかもしれません。たとえそうできなくても、「やってみる」と志を立てた15歳からの挑戦は、僕の人生の宝になると信じています。